

# 【組入投信の運用レポート】

## 三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

本資料は、変額年金保険の特別勘定に組入れられている投資信託についての運用状況を開示するための参考資料であり、募集を目的とするものではありません。また、将来の運用成果を保証するものではありません。  
ご契約者が投資信託を直接保有しているものではありません(投資信託を直接購入することはできません)。  
特別勘定に組入れられている投資信託の基準価額の変動は、特別勘定の基準価額の変動とは異なります。  
本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社による運用報告を、第一生命保険株式会社より提供するものです。  
このレポートの最終ページには、諸費用やご契約者の負うリスクなどぜひご確認いただきたい内容について記載しています。必ず最終ページをご覧ください、内容について十分ご確認ください。

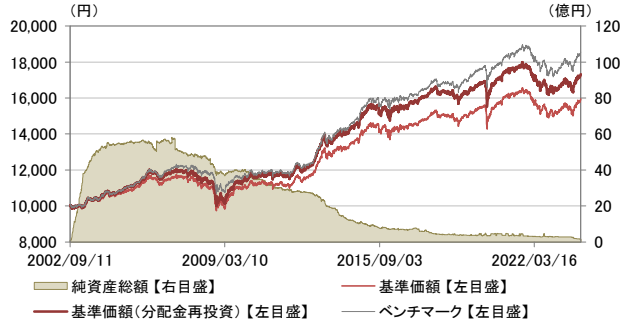
2024年2月29日現在

### ■商品概要

三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)は、2002年9月11日に設定され(信託期間:無期限)、日本を含む世界各国の株式および公社債(これらを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする投資信託証券に投資し、リスクの軽減に努めつつ中長期的に着実な成長をめざす追加型証券投資信託(ファンド・オブ・ファンズ)です。

### 三菱UFJ MV20VA(適格機関投資家限定)

#### ■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。  
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
・ベンチマークは、配当込みTOPIX15%、MSCIロクサイ インデックス(除く日本、円換算ベース、配当込み)5%、NOMURA-BPI総合指数39%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)35%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)5%、有担保コールレート翌日物1%で組み合わせた指数です。  
・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

#### ■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.0%	2.5%	2.9%	5.3%	-0.7%	73.1%
ベンチマーク	0.9%	2.8%	3.3%	6.8%	1.6%	85.6%

#### ■純資産総額

純資産総額	1.59億円
前月末比	-0.11億円

#### ■分配金実績(1万口当たり、税引前)

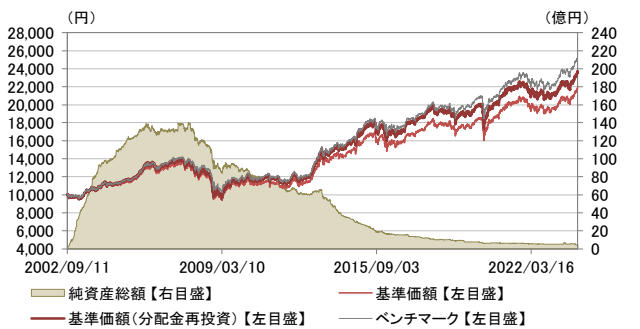
決算期	決算日	分配金
第22期	2023/12/12	0円
第21期	2022/12/12	0円
第20期	2021/12/13	0円
第19期	2020/12/14	0円
第18期	2019/12/12	0円
第17期	2018/12/12	0円
設定来累計		1,000円

#### ■資産構成

	比率
日本株式	14.8%
日本債券	38.7%
外国株式	4.6%
外国債券(為替ヘッジあり)	34.3%
外国債券(為替ヘッジなし)	4.5%
コールローン他	3.1%

### 三菱UFJ MV40VA(適格機関投資家限定)

#### ■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。  
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
・ベンチマークは、配当込みTOPIX30%、MSCIロクサイ インデックス(除く日本、円換算ベース、配当込み)10%、NOMURA-BPI総合指数29%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)25%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)5%、有担保コールレート翌日物1%で組み合わせた指数です。  
・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

#### ■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.3%	5.2%	5.9%	12.1%	10.9%	137.2%
ベンチマーク	2.1%	5.4%	6.6%	14.1%	14.2%	153.4%

#### ■純資産総額

純資産総額	4.42億円
前月末比	+0.10億円

#### ■分配金実績(1万口当たり、税引前)

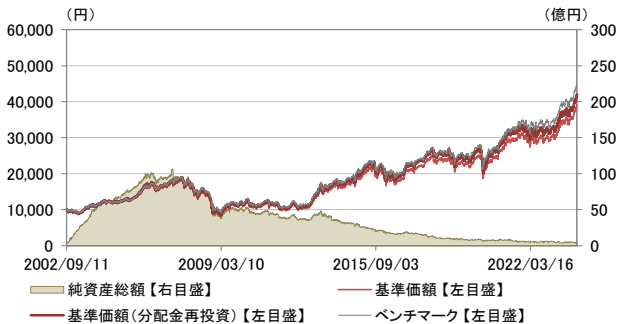
決算期	決算日	分配金
第22期	2023/12/12	0円
第21期	2022/12/12	0円
第20期	2021/12/13	0円
第19期	2020/12/14	0円
第18期	2019/12/12	0円
第17期	2018/12/12	0円
設定来累計		1,000円

#### ■資産構成

	比率
日本株式	30.0%
日本債券	28.6%
外国株式	9.7%
外国債券(為替ヘッジあり)	24.8%
外国債券(為替ヘッジなし)	4.9%
コールローン他	1.9%

### 三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

#### ■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。  
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
・ベンチマークは、配当込みTOPIX55%、MSCIロクサイ インデックス(除く日本、円換算ベース、配当込み)25%、NOMURA-BPI総合指数9%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)5%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)5%、有担保コールレート翌日物1%で組み合わせた指数です。  
・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

#### ■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	4.6%	10.2%	12.9%	28.3%	39.0%	319.7%
ベンチマーク	4.5%	10.7%	13.2%	30.0%	44.9%	350.6%

#### ■純資産総額

純資産総額	4.55億円
前月末比	+1.09億円

#### ■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第22期	2023/12/12	0円
第21期	2022/12/12	0円
第20期	2021/12/13	0円
第19期	2020/12/14	0円
第18期	2019/12/12	0円
第17期	2018/12/12	0円
設定来累計		1,000円

#### ■資産構成

	比率
日本株式	54.9%
日本債券	8.9%
外国株式	24.7%
外国債券(為替ヘッジあり)	4.9%
外国債券(為替ヘッジなし)	4.8%
コールローン他	1.8%

・本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づいて作成しましたが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、上記の実績・データ等は過去のものであり、今後の成果を保証・約束するものではありません。・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

## 【組入投信の運用レポート】

### 三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

本資料は、変額年金保険の特別勘定に組入れられている投資信託についての運用状況を開示するための参考資料であり、募集を目的とするものではありません。また、将来の運用成果を保証するものではありません。  
ご契約者が投資信託を直接保有しているものではありません(投資信託を直接購入することはできません)。  
特別勘定に組入れられている投資信託の基準価額の変動は、特別勘定の基準価額の変動とは異なります。  
本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社による運用報告を、第一生命保険株式会社より提供するものです。  
このレポートの最終ページには、諸費用やご契約者の負うリスクなどぜひご確認いただきたい内容について記載しています。必ず最終ページをご覧ください、内容について十分ご確認ください。

#### 【市場の動き】

2月の海外株式相場は上昇しました。米国では、1月の雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比+35.3万人となり、市場予想を上回りました。一方、1月の小売売上高は前月比-0.8%となり、市場予想を下回りました。欧州では、2023年12月のドイツの鉱工業生産指数が前月比-1.6%となり、市場予想を下回りました。また、2月のユーロ圏総合購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月から上昇しましたが、9ヵ月連続で業況判断の分岐点である50を下回りました。

こうした環境下、米国では、早期利下げ観測の後退等から下落する局面はあったものの、良好な企業決算に加え、米半導体大手の大幅な増収増益を背景にハイテク株や半導体株中心に買いが広がったこと等から上昇し、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。また、欧州も、月前半は欧州中央銀行(ECB)による早期利下げ観測の後退等から上値の重い展開となりましたが、月後半は欧州企業の好決算が好感されたことや、米半導体大手の大幅な増収増益等を背景とした世界的な株高が波及したこと等から上昇し、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。国内株式相場も上昇しました。外国人買いが主導して上昇基調を辿る展開となったことに加え、米半導体大手の大幅な増収増益等を背景に半導体関連株が上昇したこと等も追い風となり、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。

海外債券相場は下落しました。前月末に3.9%台前半であった米国10年物国債利回りは、底堅い経済指標に加え、1月の消費者物価指数(CPI)の前月比が市場予想を上回ったこと等を背景に早期利下げ観測が後退したこと等から上昇し、最終的に4.2%台後半で月を終えました。前月末に2.1%台後半であったドイツ10年物国債利回りは、ECBによる早期利下げ観測が後退したことに加え、米国の早期利下げ観測の後退も波及したこと等から上昇し、最終的に2.4%台前半で月を終えました。

一方、国内債券相場は上昇しました。前月末に0.7%台前半であった10年物国債利回りは、日銀による早期のマイナス金利解除観測から上昇する局面はあったものの、2023年10-12月期の実質国内総生産(GDP)速報値が2四半期連続のマイナス成長となったことを背景に日銀による金融政策正常化観測が後退したこと等から低下し、最終的に0.7%台前半で月を終えました。

為替市場では、米欧中央銀行による早期利下げ観測が後退したこと等を背景に米欧の長期金利が上昇した一方、日銀による金融政策正常化観測の後退を背景に日本の長期金利が低下したこと等から円安が進み、米ドル/円相場は2.4%の円安、ユーロ/円相場は2.0%の円安となりました。

#### 【ラッセル・インベストメント グループ】

ラッセル・インベストメント グループは、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に、グローバルに総合的な資産運用ソリューションを提供しています。

グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理など幅広く業務を行っており、現在当グループの運用資産総額は約42兆円※となっています。

(※ 2023年12月末現在、為替換算レート: 140.98円/ドル。運用資産総額にはオーバーレイ運用を含みます。)

#### 【ラッセル・インベストメント 株式会社】

これまでラッセル・インベストメント グループが世界で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、日本の投資家の皆様にご提供致しております。

・三菱UFJ MV20VA/MV40VA/MV80VAの主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。  
・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。  
・本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した諸データに基づいて作成しましたが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、上記の実績・データ等は過去のものであり、今後の成果を保証・約束するものではありません。  
・配当込みTOPIXとは、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。配当込みTOPIXの指数値及び配当込みTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。  
・MSCIコクサイ インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。MSCIコクサイ インデックス(除く日本 円換算ベース 配当込み)は、MSCIコクサイ インデックス(除く日本 米ドルベース 配当込み)をもとに、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が計算したものです。また、MSCIコクサイ インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。  
・NOMURA - BPI総合指数とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。  
・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)ならびにFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income L.L.C.により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。  
(注)各合成ベンチマークの計算にあたっては、三菱UFJアセットマネジメント株式会社において、ファンドにおける組入資産・為替の評価時点にあわせて計算を行います。

# 【組入投信の運用レポート】

## 三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

本資料は、変額年金保険の特別勘定に組入られている投資信託についての運用状況を開示するための参考資料であり、募集を目的とするものではありません。また、将来の運用成果を保証するものではありません。  
ご契約者が投資信託を直接保有しているものではありません(投資信託を直接購入することはできません)。  
特別勘定に組入られている投資信託の基準価額の変動は、特別勘定の基準価額の変動とは異なります。  
本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社による運用報告を、第一生命保険株式会社より提供するものです。  
このレポートの最終ページには、諸費用やご契約者の負うリスクなどぜひご確認いただきたい内容について記載しています。必ず最終ページをご覧ください、内容について十分ご確認ください。

### 各投資信託証券の運用経過および運用状況

#### ラッセル・インベストメント日本株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)

##### 1.運用成果

設定日 2000年12月21日  
(2024年2月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初末
ファンド	246.2%	34.6%	13.9%
ベンチマーク	226.8%	37.6%	13.7%
過去6か月			
過去3か月			
過去1か月			
ファンド	14.7%	12.5%	5.6%
ベンチマーク	16.0%	12.9%	4.9%
組入銘柄数	406銘柄		

##### 株式保有上位10銘柄 (2024年2月末)

銘柄	業種	組入比率 <sup>※1</sup>
日立製作所	電気機器	3.1%
セブン&アイホールディングス	小売業	2.6%
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.4%
東京エレクトロン	電気機器	2.3%
ソニーグループ	電気機器	2.2%
トヨタ自動車	輸送用機器	2.2%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.2%
オリックス	その他金融業	2.2%
本田技研工業	輸送用機器	2.0%
リクルートホールディングス	サービス業	1.9%

※1 組入比率は株式評価額合計に対する割合(投資信託除く)

##### 3.運用状況

2月の国内株式相場は上昇しました(TOPIX(配当込み)は前月末比4.9%上昇)。こうした中、ラッセル・インベストメント日本株式ファンドⅡの基準価額は前月末比5.6%上昇しました。国内株式相場は、外国人買いが主導して上昇基調を辿る展開となったことに加え、米半導体大手の大幅な増収増益等を背景に半導体関連株が上昇したことも追い風となり、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。Russell/Nomuraグロース指数は前月比4.2%上昇、同バリュース指数は5.7%上昇し、バリュースがグロースを上回りました。

##### 2.ファンドの内容

###### 上位10業種の配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2024年2月末)			
業種	ファンド <sup>※1</sup>	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
電気機器	20.6%	17.5%	4.9%
銀行業	8.3%	7.3%	7.2%
輸送用機器	7.9%	9.4%	14.1%
機械	6.9%	5.5%	6.4%
化学	6.4%	5.8%	2.7%
卸売業	5.3%	7.3%	6.3%
小売業	5.1%	4.2%	4.7%
情報・通信業	4.2%	7.5%	3.6%
サービス業	4.1%	4.6%	1.1%
保険業	4.0%	2.6%	11.1%

ベンチマーク: TOPIX(配当込み)

TOPIXの指数値および商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、すべての権利はJPXが所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、JPXはその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

※2 キャッシュ・エクイティ・エージェンシー(流動資産の株式化)部分を除きます。

運用会社	運用スタイル	目標配分割合 <sup>※2</sup>
アセットマネジメントOne(投資助言)(注1)	グロース型	18.5%
ホリマー・キャピタル・ジャパン(投資助言)(注1)	グロース型	7.5%
SOMPOアセットマネジメント(投資助言)(注1)	バリュース型	30.0%
ラッセル・インベストメント・インフラストラクチャー・サービスズ	バリュース型	5.0%
スパークス・アセット・マネジメント(投資助言)(注1)	マーケット・オリエンテッド型	17.0%
M&Gインベストメント(投資助言)(注1)	マーケット・オリエンテッド型	17.0%
ラッセル・インベストメント・インフラストラクチャー・サービスズ	ポートフォリオ特性補強型	5.0%

(注1)各運用会社の投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インフラストラクチャー・サービスズが運用の指図を行います。

(注2)2024年2月7日付で、グロース型を担当していたチカラ・インベストメントを解約するとともに、運用会社の目標配分割合を一部変更しました。

#### ラッセル・インベストメント外国株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)

##### 1.運用成果

設定日 2000年12月21日  
(2024年2月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初末
ファンド	501.3%	33.7%	12.4%
ベンチマーク	599.5%	37.9%	11.8%
過去6か月			
過去3か月			
過去1か月			
ファンド	14.0%	13.0%	4.4%
ベンチマーク	15.7%	12.0%	6.9%
組入銘柄数	577銘柄		

##### 株式保有上位10銘柄 (2024年2月末)

銘柄	通貨	組入比率 <sup>※1</sup>
MICROSOFT CORP	USD	3.8%
META PLATFORMS INC-CLASS A	USD	2.5%
TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	USD	2.3%
ALPHABET INC-CL A	USD	1.7%
APPLE INC	USD	1.6%
MASTERCARD INC-A	USD	1.4%
UNITEDHEALTH GROUP INC	USD	1.2%
UBER TECHNOLOGIES INC	USD	1.2%
AUTOZONE INC	USD	1.2%
AMAZON.COM INC	USD	1.1%

※1 組入比率は株式評価額合計に対する割合(投資信託除く)

##### 3.運用状況

2月の海外株式相場は上昇しました(MSCI KOKUSAI(配当込み)は前月末比6.9%上昇)。こうした中、ラッセル・インベストメント外国株式ファンドⅡの基準価額は前月末比4.4%上昇しました。海外株式相場は、米国では、良好な企業決算に加え、米半導体大手の大幅な増収増益を背景にハイテク株や半導体株中心に買いが広がったこと等から上昇し、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。また、欧州も、欧州企業の好決算が好感されたことや、米半導体大手の大幅な増収増益等を背景とした世界的な株高が波及したこと等から上昇し、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。為替市場では、米ドル/円相場は2.4%の円安、ユーロ/円相場は2.0%の円安となりました。

運用成果はラッセル・インベストメント日本株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)及びラッセル・インベストメント外国株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)に関するもので、上位10業種の配分、地域別配分、株式保有上位10銘柄、外部委託運用会社、運用状況はラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド及び、ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンドについての記述です。運用成果は過去の実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。ベンチマークの数字は各当該指数の実績を示すものであり、ファンドの実績或いは将来の成果を保証するものではありません。

・三菱UFJ MV20VA・MV40VA・MV80VAの主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。  
・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。  
・本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した諸データに基づいて作成しましたが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、上記の実績・データ等は過去のものであり、今後の成果を保証・約束するものではありません。



## 【組入投信の運用レポート】

### 三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

本資料は、変額年金保険の特別勘定に組入れられている投資信託についての運用状況を開示するための参考資料であり、募集を目的とするものではありません。また、将来の運用成果を保証するものではありません。  
ご契約者が投資信託を直接保有しているものではありません(投資信託を直接購入することはできません)。  
特別勘定に組入れられている投資信託の基準価額の変動は、特別勘定の基準価額の変動とは異なります。  
本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社による運用報告を、第一生命保険株式会社より提供するものです。  
このレポートの最終ページには、諸費用やご契約者の負うリスクなどぜひご確認いただきたい内容について記載しています。必ず最終ページをご覧ください、内容について十分ご確認ください。

## 各投資信託証券の運用経過および運用状況

### ラッセル・インベストメント日本債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)

#### 1.運用成果

設定日 2002年9月12日

(2024年2月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	18.5%	-0.9%	0.6%
ベンチマーク	24.9%	-0.7%	0.8%
過去6か月			
過去3か月			
過去1か月			
ファンド	-0.3%	-0.2%	0.3%
ベンチマーク	-0.2%	0.0%	0.3%

ベンチマーク: NOMURA-BPI総合指数

NOMURA-BPI 総合指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社(以下「NFRCI」といいます。)が公表する、国内で発行された公募利付債券の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPI は、NFRCIが作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利はNFRCIに帰属しています。また、NFRCIは、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではありません。ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

#### 3.運用状況

2月の国内債券相場は上昇しました(NOMURA-BPI総合指数は前月末比0.3%上昇)。こうした中、ラッセル・インベストメント日本債券ファンドⅢの基準価額は前月末比0.3%上昇しました。国内債券相場は、日銀による早期のマイナス金利解除観測から下落する局面はあったものの、2023年10-12月期の実質国内総生産(GDP)速報値が2四半期連続のマイナス成長となったことを背景に日銀による金融政策正常化観測が後退したこと等から上昇し、最終的に前月末を上回る水準で月を終えました。

### ラッセル・インベストメント外国債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)

Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)

#### 1.運用成果

Aコース

設定日 2002年9月12日

(2024年2月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	29.3%	-3.4%	-0.6%
ベンチマーク	29.3%	-1.6%	-0.4%
過去6か月			
過去3か月			
過去1か月			
ファンド	-0.6%	-0.2%	-1.2%
ベンチマーク	-0.5%	0.5%	-1.4%

Bコース

設定日 2002年9月12日

(2024年2月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	155.0%	13.7%	4.5%
ベンチマーク	150.1%	14.7%	3.4%
過去6か月			
過去3か月			
過去1か月			
ファンド	5.0%	3.1%	1.3%
ベンチマーク	5.1%	2.8%	1.1%

#### 3.運用状況

2月の海外債券相場は下落しました(FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は円安のため前月末比1.1%上昇)。こうした中、ラッセル・インベストメント外国債券ファンドⅢの基準価額はAコースで前月末比1.2%の下落、Bコースで1.3%の上昇となりました。海外債券相場は、米国では、底堅い経済指標に加え、1月の消費者物価指数(CPI)の前月比が市場予想を上回ったこと等を背景に早期利下げ観測が後退したこと等から下落し、最終的に前月末を下回る水準で月を終えました。また、欧州もほぼ同様の展開となり、最終的に前月末を下回る水準で月を終えました。為替市場では、米ドル/円相場は2.4%の円安、ユーロ/円相場は2.0%の円安となりました。

運用成果はラッセル・インベストメント日本債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)及び、ラッセル・インベストメント外国債券ファンドⅢ Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)(適格機関投資家限定)に関するもので、種別配分、地域別配分、外部委託運用会社、運用状況はラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド及び、ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンドについての記述です。運用成果は過去の実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りと異なります。ベンチマークの数字は各当該指数の実績を示すものであり、ファンドの実績或いは将来の成果を保証するものではありません。

・三菱UFJ MV20VA・MV40VA・MV80VAの主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。  
・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。  
・本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した諸データに基づいて作成しましたが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、上記の実績・データ等は過去のものであり、今後の成果を保証・約束するものではありません。

#### 2.ファンドの内容

種別配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2024年2月末)

種別	ファンド※1	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
国債	53.4%	84.8%	0.3%
地方債	19.7%	6.0%	0.1%
政保債	0.0%	1.3%	0.3%
金融債	0.0%	0.3%	-0.2%
事業債	19.0%	6.0%	0.2%
円建外債	3.5%	0.3%	0.2%
MBS / ABS	2.6%	1.3%	0.2%
その他	1.8%	--	--

※1 組入比率は債券及び投資信託の評価額合計に対する割合

外部委託運用会社

運用会社

運用スタイル

目標配分割合

ウエストン・アセット・マネジメント

広範囲型

50.0%

アセット・マネジメントOne

広範囲型

50.0%

#### 2.ファンドの内容

地域別配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2024年2月末)

地域	ファンド※1	ベンチマーク	ベンチマーク収益率	
			(ヘッジあり)	(ヘッジなし)
北米地域	46.4%	48.9%	-1.8%	1.0%
ユーロ地域	23.2%	32.1%	-1.5%	0.8%
ユーロ除く欧州	9.0%	6.4%	-1.6%	0.6%
その他	21.4%	12.6%	0.2%	2.6%

※1 組入比率は債券及び先物等の評価額合計に対する割合

ベンチマーク Aコース: FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)

Bコース: FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。当該インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。当該インデックスに対する著作権等の知的財産その他の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

外部委託運用会社

運用会社

運用スタイル

目標配分割合

コルチェスター・グローバル・インベスターズ

マクロ・バリュウ型

30.0%

インサイト・インベストメント・マネジメント

広範囲型

70.0%

# 【組入投信の運用レポート】

## 三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

本資料は、変額年金保険の特別勘定に組入れられている投資信託についての運用状況を開示するための参考資料であり、募集を目的とするものではありません。また、将来の運用成果を保証するものではありません。  
ご契約者が投資信託を直接保有しているものではありません(投資信託を直接購入することはできません)。  
特別勘定に組入れられている投資信託の基準価額の変動は、特別勘定の基準価額の変動とは異なります。  
本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社による運用報告を、第一生命保険株式会社より提供するものです。  
このレポートの最終ページには、諸費用やご契約者の負うリスクなどぜひご確認ください。必ず最終ページをご覧ください、内容について十分ご確認ください。

## 三菱UFJ MV20/40/80VA(適格機関投資家限定)の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

ラッセル・インベストメント日本株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)
ラッセル・インベストメント日本株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。
<b>＜ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンド＞</b>
ラッセル・インベストメント日本株式マザーファンドは、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPIX(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を併用することにより、ファンド全体でリスクコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グローバル型、バリュエーション型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。
<b>グローバル型：アセットマネジメントOne(日本)(投資助言)</b>
アセットマネジメントOneは、今後数年で大きな利益成長を遂げると考える企業に投資します。マクロ状況・投資家動向への理解が深く、ボトムアップでの銘柄選択に加えて、ポートフォリオ構築のエクセレンスになっています。なお、アセットマネジメントOneの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>グローバル型：ポリマー・キャピタル・ジャパン(ケイマン)(投資助言)</b>
ポリマーは、運用担当者自身が行うボトムアップの銘柄リサーチにより、市場平均を上回る本質的な成長を生み出すことができる企業の特定に重点を置き、中小規模の高成長の機会を先取りし、大規模な成長企業に投資し、産業、市場の循環の長期的・積極的なポートフォリオ運営を行います。なお、ポリマーの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>バリュエーション型：SOMPOアセットマネジメント(日本)(投資助言)</b>
SOMPOは、「ノーマル収益力(企業の本質的な収益力)と高成長をベースにした中長期ファンダメンタルズに基づき投資価値を、配当割引モデルをベースにした独自のバリュエーションモデルを算出し、割安度の高い銘柄を中心に投資します。厳格な売却規律を持ち、目標株価を達成した銘柄は速やかに売却します。なお、SOMPOの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>バリュエーション型：ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ(米国)</b>
ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にマザーファンドの一部について運用を行います。当該部分においては、低PER(株価総資産比率)銘柄を中心としたポートフォリオ(デュアルバリュエーション)を構築することにより、ファンドの低PER特性を補強します。
<b>マーケット・オリエンテッド型：スパークス・アセット・マネジメント(日本)(投資助言)</b>
スパークスは、業界力やブランド力があり、グローバルでの成長が今後も期待できる企業に投資します。銘柄を厳選するだけでなく、保有銘柄は少量に絞られ、非常に集中したポートフォリオとなります。なお、スパークスの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>マーケット・オリエンテッド型：M&amp;Gインベストメンツ(米国)(投資助言)</b>
M&Gは、ファンダメンタルズ分析に基づくボトムアップでの投資対象銘柄の選定を行っており、個々の企業にとって最も重要なKPI(重要業績評価指標)の特定、現在の株価と本来価値とのギャップの要因の特定を重視します。また、シナリオ分析に基づき複数の高い収益予想に注力することによって投資価値を高めることが可能な銘柄の投資先の下、リスク管理を適切に行いながら、超過収益確保度の高い銘柄群でリスクを分散するポートフォリオ構築を志向しています。なお、M&Gの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>ポートフォリオ特性補強型：ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ(米国)</b>
ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にマザーファンドの一部について運用を行います。当該部分においては、採用している他の運用会社の運用戦略の特徴を活かしながら、マザーファンド全体としてのポートフォリオ特性を補強するために必要なファクター(バリュエーション、モメンタム、低ボラティリティ、高配当など)の運用を行います。

(注)2024年2月7日付で、グローバル型を担当していたカナダ・インベストメンツを解約するとともに、運用会社の目標配分割合一部変更しました。

ラッセル・インベストメント外国株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)
ラッセル・インベストメント外国株式ファンドⅡ(適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。
<b>＜ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンド＞</b>
ラッセル・インベストメント外国株式マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(MSCI KOSJI(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。グローバル型、バリュエーション型、マーケット・オリエンテッド型などの異なる運用スタイルを持つ運用会社を最適な割合で組み合わせ、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。
<b>グローバル型：パインストーン・アセット・マネジメント(カナダ)(投資助言)</b>
パインストーンは、ROIC(投下資本利益率)やROE(自己資本利益率)、EVA(経済的付加価値)を重視して、高クオリティで合理的なバリュエーションを備えた成長性の高い銘柄をボトムアップ・アプローチで選別します。また、ファンダメンタルズ分析では、企業の持つ競争力や参入障壁、経営陣の質などを重視します。なお、パインストーンの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>グローバル型：モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント(米国)(投資助言)</b>
モルガン・スタンレーは、ROIC(投下資本利益率)やフリーキャッシュフローに着目し、長期的な視点から、独自の競争力を持ち、成長性が期待できる銘柄を選別します。ベンチマークはあまり意識せず、新興国株式を含め、比較的銘柄数を絞ったポートフォリオを構築します。なお、モルガン・スタンレーの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>バリュエーション型：サンダース・キャピタル・マネジメント(投資助言)</b>
サンダースは、グローバルな視点から投資テーマを的確に選定し、市場に先駆けて高成長の企業を先取りし、当該企業の特長を最大限に活かすことにより、高成長を達成する銘柄を選別します。なお、サンダースの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>バリュエーション型：ブジーナ・インベストメント・マネジメント(米国)(投資助言)</b>
ブジーナは、各セクターに精通した社内アナリストが質の高いボトムアップリサーチを行い、収益力・バリュエーションの低下が一時的な要因のみならず、構造的な要因による場合、一時的な要因が解消した後に収益力・バリュエーションの回復が期待される銘柄に投資することで高い超過収益の獲得を目指します。なお、ブジーナの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>マーケット・オリエンテッド型：ニューメリック・インベスターズ(米国)(投資助言)</b>
ニューメリックは、運用モデルの開発に優れたリサーチチームや経験豊富な優秀なポートフォリオ・マネージャーを擁しており、バリュエーション、業績予想修正、株価モメンタム等の有効なファクターをバランス良く的確に選定した上で運用モデルを活用し、超過収益の獲得を目指します。なお、ニューメリックの投資助言に基づき、ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズが運用の指図を行います。
<b>ポートフォリオ特性補強型：ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ(米国)</b>
ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にマザーファンドの一部について運用を行います。当該部分においては、採用している他の運用会社の運用戦略の特徴を活かしながら、マザーファンド全体としてのポートフォリオ特性を補強するために必要なファクター(バリュエーション、モメンタム、低ボラティリティ、高配当など)の運用を行います。

ラッセル・インベストメント日本債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)
ラッセル・インベストメント日本債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。
<b>＜ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド＞</b>
ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンドは、日本の市場において取引されている社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(NOMURA-BPI総合指数)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を併用することにより、金利予測、満期構成、債券種類選択、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。
<b>広範型</b>
<b>ウエスタン・アセット・マネジメント(日本)</b>
ウエスタンは、グローバルに展開する債券特化型の運用会社です。デュレーション(金利感応度)戦略やイールドカーブ(利回り曲線)戦略などの金利戦略においては、グローバルな視野から高い選別能力を活かし、マクロ経済から長期国債まで幅広い銘柄分析により投資を行います。また、クレジット戦略においては、同社が有するグローバルなクレジット調査体制を生かし、サムライ債等のセクター戦略および個別銘柄選択を強みとしています。
<b>広範型</b>
<b>アセットマネジメントOne(日本)</b>
アセットマネジメントOneは金利、クレジット/セクターの両戦略において、安定的に超過収益の獲得を目指します。金利戦略部分では、投資家行動や動向分析に強みがあり、その分析能力を駆使して短期的なポジションを機動的に多数回取りこみ、超過収益の積み上げを図ります。クレジット/セクター戦略部分では、クレジットアナリストが定性、定量両面から精緻な信用力分析を行い、ポートフォリオ・マネージャーが個別銘柄選択を行います。また、投資ユビコーズの拡充にも積極的です。

ラッセル・インベストメント外国債券ファンドⅢ Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)(適格機関投資家限定)
ラッセル・インベストメント外国債券ファンドⅢ Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)の運用はファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。
<b>＜ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンド＞</b>
ラッセル・インベストメント外国債券マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース))を上回ることを目標として運用を行います。当ファンドの大部分は国債や、高い格付けの債券に投資されます。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種類選択、個別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。
ペピーファンドのベンチマークはそれぞれ下記の通りです。 Aコース(為替ヘッジあり)：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ/円ベース) Bコース(為替ヘッジなし)：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) Aコースは原則として為替ヘッジ(運用会社：ラッセル・インベストメント・インプリメンテーション・サービシーズ)を行い、為替変動リスクの低減を図ります。Bコースは原則として為替ヘッジを行いません。
<b>マクロ/バリュエーション型</b>
<b>コレクティブ・グローバル・インベスターズ(米国)</b>
コレクティブの運用スタイルは、各国の経済情勢や財政の健全性などのマクロ分析を通じて、相対的に高いリターンが見込める、割安度の高い債券および通貨を先取りするというものです。割安であることが前提の銘柄は、実質金利や購買力平価などを予測する同社独自の定量モデルを用いて行われ、この結果に定性判断を加味することにより個別は適宜配分が決定されます。
<b>広範型</b>
<b>インサイト・インベストメント・マネジメント(米国)</b>
インサイトは、特定の戦略に集中することなく、個別配分、個別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった、あらゆる超過収益源泉をカバーし、市場環境の変化に合わせて柔軟に投資する運用能力を有しています。

各ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメント・グループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更される事があります。  
三菱UFJ MV20VA、MV40VA、MV80VAの主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。  
市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。  
本資料は、三菱UFJアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した諸データに基づいて作成しましたが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、上記の実績・データ等は過去のものであり、今後の成果を保証・約束するものではありません。

## 特にご確認いただきたい重要事項【引出機能付災害 2 割加算型変額年金保険】

### ■運用リスクについて

- この商品は、年金額、積立金額、解約返還金額、給付金額等が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの、保険料一時払方式の変額年金保険(生命保険)です。引受保険会社は、第一生命保険株式会社です。
- ファンド(特別勘定)での資産運用においては主に投資信託に投資しますので、その運用においては運用リスクを負うことになります。この商品では、資産運用の成果が直接、積立金額、解約返還金額、死亡給付金額等に反映されることから、資産運用の成果とリスクがともにご契約者に帰属することとなります。なお、積立金額、解約返還金額、年金原資、年金額に最低保証はありません。
- 積立金額は、ファンド(特別勘定)で運用・管理されます。ファンド(特別勘定)は、実質的に国内外の株式・債券等を投資対象とするため、「株価の下落」「金利の上昇による債券価格の下落」「円高による外貨建資産価格の下落」等が基準価額の下落要因となります。
- 基準価額の下落は直接、積立金額、解約返還金額、年金原資などに反映されるため、積立金額、解約返還金額、年金原資が一時払保険料相当額を大きく下回ることがあり損失が生じるおそれがあります。

### ■ご負担いただく諸費用について

お客さまには以下の諸費用の合計額をご負担いただきます。

#### (1) 運用期間中

##### ① すべてのご契約者にご負担いただく費用

項目	金額	備考
<b>保険契約関係費</b> 死亡給付金のお支払いや、ご契約の締結・維持に必要な費用です。	ファンド(特別勘定)の資産総額に対して 年率 1.545%	ファンド(特別勘定)の資産総額に対して年率 1.545%/365 日を毎日控除します。
<b>運用に関わる費用</b> 各ファンド(特別勘定)の運用に関わる費用として、投資対象となる投資信託にかかる信託報酬などです。	信託報酬は、(年率)1.35223%が上限です。(別表をご覧ください) ※運用手段の変更、運用資産額の変動等の理由により将来変更される可能性があります。	投資対象となる各投資信託の信託報酬は、信託財産の額に対して所定の率(年率)/365 日を毎日控除します。

※上記の信託報酬の他、以下の諸費用を間接的にご負担いただくことがあります。なお、売買委託先、売買金額等によって手数料率が変動する等の理由から、これらの計算方法は表示しておりません。

- 有価証券の売買時の売買委託手数料および有価証券取引に係る手数料・税金、先物・オプション取引に要する費用、信託財産留保額、当該手数料にかかる消費税等相当額および外貨建資産の保管等に要する費用(マザーファンドで運用する場合も同様)等(別表)各特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の信託報酬

特別勘定の名称	主たる投資対象とする投資信託の信託報酬※1	特別勘定の名称	主たる投資対象とする投資信託の信託報酬※1
バランス 20 型	年率 1.06843%程度(税抜 0.9713%程度) <投資対象とする投資信託証券を含めない場合、年率 0.2805%(税抜 0.255%)>	外国株式 1 型	年率 0.495%(税抜 0.45%)
バランス 40 型	年率 1.16303%程度(税抜 1.0573%程度) <投資対象とする投資信託証券を含めない場合、年率 0.2805%(税抜 0.255%)>	日本債券 1 型	年率 0.275%(税抜 0.25%)
バランス 80 型	年率 1.35223%程度(税抜 1.2293%程度) <投資対象とする投資信託証券を含めない場合、年率 0.2805%(税抜 0.255%)>	外国債券 1 型	年率 0.385%(税抜 0.35%)
日本株式 1 型	年率 0.385%(税抜 0.35%)	マネー型	第一生命が直接運用します。※2

※1:上記信託報酬は、2023 年 4 月現在の数値であり、運用会社により今後変更され引き上げられることがあります。なお、( )内は消費税抜きの額を表示しています。

※2:当該特別勘定においては、資産運用の過程で有価証券取引に係る手数料・税金、先物・オプション取引に要する費用、当該手数料にかかる消費税等相当額を運用費用の一部として間接的にご負担いただくことがあります。なお、売買委託先、売買金額等によって手数料率が変動する等の理由から、これらの計算方法は表示しておりません。

##### ② 特定のご契約者にご負担いただく費用

項目	金額	備考
<b>保険契約維持費</b> 基本保険金額が 200 万円未満の場合にかかる費用です。	毎月 400 円	月単位の契約応当日(契約日を含みます)始に積立金から控除します。
<b>解約控除</b> 契約日(増額日)から経過 10 年未満で解約・減額された場合にかかる費用です。	契約日からの経過年数に応じ、基本保険金額に対して 6.0%~0.6%の解約控除率を乗じた金額	解約・減額時にお支払いする積立金から控除します。

#### (2) 年金受取期間中

項目	年金の種類	金額	備考
保険契約関係費	確定年金	支払年金額に対して年率 1.0%	第2回以後の年金の年金支払日に責任準備金から控除します。
	保証期間付有期年金		
	保証期間付終身年金	保証期間中:支払年金額に対して年率 1.0% 保証期間経過後:支払年金額に対して年率 2.0%	

※上記の率等は年金支払開始日の時期により異なることがあります。

#### ■その他ご留意いただきたい事項について

- ・ この商品では、年金原資、年金額に最低保証はありませんので、お受取りになる年金の合計額が一時払保険料相当額を下回ることがあります。そのため損失が生じるおそれがあります。
- ・ この商品では、ご契約日(増額日)から10年未満に解約・減額をされますと解約控除がかかります。また、解約返還金額には最低保証はありませんので、一時払保険料相当額を下回ることがあります。そのため損失が生じるおそれがあります。